

平和を考える

毎年この時期が近づくと、各メディアで取り上げられる「戦争と平和」。長崎に暮らす人々は、幼少期から被爆地長崎として戦争の悲惨な傷跡のことを本で読み、写真や映像を見て学んできました。また、同じようなことを繰り返さないようにと、当時を知る方から話を聞いてきました。終戦から70年が経ち、当時の様子を実際に知る人は少なくなり、生の声を聴くことは今や難しくなっています。写真や映像でしか知ることのできない戦争の恐ろしさを、私たちは次の世代にどう伝えていけるのでしょうか。

戦時中の被害について、長崎に住んでいる私たちは原子爆弾の恐ろしさを身近に知っています。しかし、戦争の傷はそれだけではなく、国内にも、そして国外にも残っています。あらゆる国の人々が命を落とし、家族の死、友人の死を受け止めざるを得ませんでした。受けた傷跡に注目しがちな戦争の歴史ですが、様々な傷跡が他の地にもあることを忘れてはいけません。

戦後70年を迎えた今、各々が平和について考えていることでしょう。しかし、争いは今でも絶えずどこかで起きています。平和を願う一方で、人々は戦争を繰り返すという歴史を辿ってきています。この節目に、70年前を悲惨な過去と思うだけに止めず、これから私たちが同じことを繰り返さないためにも、今一度真摯に平和であることの意味を考えたいものです。



『戦争報道論
平和をめざす
メディアリテラシー』
永井 浩/著
明石書店
2階一般 070.2 ナ

戦後70年、メディアは戦争をどう伝えてきたか、どう伝えていくか。記者としてアジアでの日本の戦争責任・対テロ戦争などの報道にかかわってきた著者が、戦争と平和に向き合う、民衆のための新たなジャーナリズムを追究する。



『世界を平和にするためのささやかな提案』
池澤 春菜/[ほか]著
河出書房新社
Y319.8 セ

世界を平和にするために、わたしたちができることは何か。黒柳徹子(女優・ユニセフ親善大使)、木村草太(憲法学者)、春香クリスティーン(タレント)など22人が、今日からできる平和のためのアイデアを提案する。



『ニュースに出てくる
国際条約じてん』2
池上 彰/監修
こどもくらぶ/編
彩流社
児童 329 ニ

国際社会での取り決めである国際条約の中でも、軍事と平和に関するおもな条約を取り上げ、採択された年、条約がつくられた背景や経緯、内容、日本とのかかわりを、写真や地図を交えて解説する。

<図書館カレンダー>

※毎週火曜日は休館日です。

※開館時間 10:00～20:00



8月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

9月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

調べる学習たいけん教室

“調べる学習たいけん教室”は、子どもたちに自分が興味を持ったことについて調べる楽しさを感じてもらおうと、毎年開催しているイベントです。

今年は6月と7月に実施し、多くの方に参加していただきました。小学校1年生から3年生までは親子で、小学校4年生から6年生までは1人で取り組みます。自分でテーマを決めて、調べ、まとめ、そして発表しました。調べてから発表にいたるまで、一筋縄ではいかなかったことでしょう。ひとつのものを上げることは大きな達成感を得られますが、それ以上に調べを進める過程で思考を重ね、予想外の発見があることが調べる学習の面白さです。この体験を通して学んだことや感じたことが、今後、疑問に感じたことを解決していく糧になることを願っています。

何かに疑問を持つことは、年齢を問わず誰しもあるはずですが、それをひも解くヒントが、図書館にはつまっています。疑問に感じたことをそのままにせず、調べてみることで知への探究心が広がるのではないのでしょうか。



いろいろな国のことばのおはなし会

長崎市立図書館には、英語・中国語・韓国語などの外国語で書かれた絵本がたくさんあります。その外国語絵本を用いて、長崎市在住の外国人の方や、多文化に興味がある方に読み語りをするイベント“いろいろな国のことばのおはなし会”を、7月18日(土)に行いました。

絵本だけでなく、各国の手遊びや歌を楽しみ、その国の文化を知るきっかけとなる時間でした。実際に生の外国語にふれることで、多文化に関心を持つきっかけになったのではないのでしょうか。

いろいろな国のことばのおはなし会は、毎年2回開催しています。第2回目は10月31日(土)開催予定です。ぜひ、ご参加ください。





出会う旅

長い休みがとれると、どこか旅に出かけたくありませんか？

日差しが厳しい季節です。ちょっと足を伸ばして、美術館や博物館のような涼しく過ごせる場所を訪れてはいかがでしょうか。『西日本美術館ベストガイド』には、九州・中部・四国・近畿地方にある美術館が掲載されています。各館の見どころや国宝・重要文化財の案内、周辺の観光情報もあわせて紹介されています。一度は見てみたいと思う作品や行ってみたいと思う美術館に出会えるかもしれません。

もう1冊は、旅にまつわる本として、小説『だから荒野』をご紹介します。物語は、身勝手な夫と息子に別れを決めた主婦が、長崎へと旅立つところから始まります。彼女と共に、その旅路をたどってみましょう。旅の途中には、いろんな出会いがあります。出会う人たちの全てが善い人とは限りません。孤独な道のりでも、進む先には何かが見えてくる予感がします。たどり着いた旅路の果てで、彼女が見出したものは何だったのでしょうか。彼女が決めた未来に、エールを送りたくなる作品です。
(司書：草野 さやか)



『西日本美術館ベストガイド』

エー アール ティ/著
メイツ出版
706.9 ニ



『だから荒野』

桐野 夏生/著
毎日新聞社
F 913.6 キリ

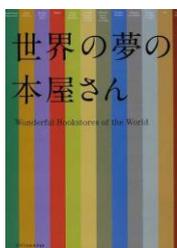
本で旅する

写真が美しく、旅行に行った気分させてくれる2冊をご紹介します。

まずは、『世界の夢の本屋さん』。「ロンドンで最も美しい書店」と言われるイギリスの“ドント・ブックス・マリルボーン”や、教会を改装したオランダの“セレクシス・ドミニカネン”など個性的な書店を数々紹介しています。店内の様子を写真満載で紹介しており、本好きにはたまらない1冊です。書店員のインタビューもあり、そこで働く人々の想いも伝わってきます。

『Gift』は、フォトグラファー・市橋織江氏の写真集。市橋氏が2006年から2008年にかけて、ひと月に一度写真を撮る旅をし、その写真をまとめた本です。アイスランド、ベルギー、南米など世界の国々から日本の軽井沢、富士五湖、京都まで、さまざまな場所で切り取られた風景は、優しい色あいで見ると人の心を和ませてくれます。観光名所を撮ってしまいがちな旅行写真ですが、森や野原や湖など、切り取る視点が写真家ならではの。その土地の空気まで伝わってくるような写真ばかりです。

どちらの本もページをめくるだけでその場所に行った気分になれそうです。ぜひ手に取って想像しながら楽しんでください。
(司書：山口 有紀)



『世界の夢の本屋さん』

エクснаレッジ
024 セ (2階大型)



『Gift』

市橋 織江/著
MATOI PUBLISHING
748 イ

図書貸出券には有効期限があります

長崎市立図書館では、登録内容の確認のために3年に一度更新手続きを行っています。

- 登録された日以降の誕生日から3年2ヵ月後に期限が切れます。期限が切れた貸出券も、更新手続きをすれば引き続きご利用いただけます。
- 有効期限の6ヵ月前から、貸出時に発行するレシートに有効期限を記載いたします。また、有効期限の2ヵ月前から、カウンターで更新のご案内をいたします。
- 更新手続きは誕生日から有効期限までの2ヵ月間に行ってください。
- 更新手続きには申請書の記入と、住所・生年月日が確認できるもの(免許証や保険証など)の提示をお願いいたします。(小学生以下の方は申請書の記入のみ)
- 旧貸出券も新しい図書貸出券への切り替えを行ってください。
- **有効期限が切れた図書貸出券は利用停止となり、貸出・予約ができなくなりますのでご注意ください。**

図書館テレビ

毎月1回月曜日、午後6時20分～午後7時

NHK総合「そこが気になる」のコーナーで放映中!

『たがや』

川端 誠/作
クレヨンハウス
日本絵本 カ



隅田川の花火風景といえば、落語「たがや」の世界。花火見物で大にぎわいの両国橋の上、たが屋の身重のおかみさんも長屋のみんなと花火見物。ところが、おかみさんが突然産気づいてしまい…。川端流落語絵本の第10作目。

図書館ラジオ

毎月第2金曜日、午後2時、長崎シティFM(81.3MHz)

「ウィーパラライブラリー」で放送中!

『ローマ法王に米を食べさせた男
過疎の村を救ったスーパー公務員は何をしたか?』

高野 誠鮮/著
講談社

4階書庫 318.6 タ



過疎高齢化により18年間で人口が半分に落ち込んだ石川県羽咋市の神子原地区を、わずか4年間で立ち直らせた羽咋市役所職員の著者。神子原地区の米をローマ法王に献上することでブランド化に成功。著者が、手がけたさまざまな「村おこし」プロジェクトを紹介。

7月スタートのドラマ「ナポレオンの村」の原案。

2015.6出版の同タイトル
改訂増補の本もあります

『紋切型社会』

言葉で固まる現代を解きほぐす!

武田 砂鉄/著
朝日出版社
304 タ



「待望の文庫化」「全米が泣いた」「うちの会社としては」…。『紋切型社会』を象徴する言葉をあらゆる方向から拾い上げ考察。ありきたりな言葉、いたずらに反復されていく言葉は、社会を思考停止させる力を持っているのではありませんか。紋切型の言葉が連呼され、考え方が凝り固まっていく社会を痛快に斬る。

予約ランキング

※ 予約が集中している本は数ヵ月お待たせすることがあります。予めご了承ください。

順位	タイトル	著者名	出版社	予約数	順位	タイトル	著者名	出版社	予約数
1	火花	又吉 直樹	文藝春秋	419	6	マスカレード・イブ	東野 圭吾	集英社	196
2	ラプラスの魔女	東野 圭吾	KADOKAWA	378	7	満願	米澤 穂信	新潮社	186
3	フランス人は10着しか服を持たない	ジェニファー・レスコット	大和書房	330	8	悲嘆の門(上)	宮部 みゆき	毎日新聞社	183
4	サラバ!(上)	西 加奈子	小学館	293	9	銀翼のイカロス	池井戸 潤	ダイヤモンド社	172
5	鹿の王(上)	上橋 菜穂子	KADOKAWA	257	10	リバーズ	湊 かなえ	講談社	165

(2015年7月16日現在)